※令和４年度以降入学生用

学校番号	3032

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「ちくま言語文化」（筑摩書房）						
副教材等	「読解をたいせつにする　体系古典文法　十訂版」（数研出版） 「必携　新明説漢文　改訂版～句法と語彙を一緒に学ぶ～」（尚文出版） 「わかる・読める・解ける　Key&Point 古文単語３３０四訂版」（いいずな書店） 「改訂版　プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）など						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

【なぜ言語文化を学ぶのか】

言語文化の授業では、古文、漢文、近代以降の文学的文章などを扱います。ここで皆さんに質問です。なぜこれらの文章を学ぶと思いますか。

学んでも将来何の役にも立たない、なぜ学ぶのか分からないと思う人も多いのではないでしょうか。確かに、将来直接役に立つものではないかもしれません。しかし、人生は役に立つものだけでできているのでしょうか。そもそも、もし本当に必要なければ、現代にまで残ることはなかったでしょう。

人と人のつながりの間には言葉があります。自分とは異なる考え方、異なる価値観、異なる背景を持った他者との間をつないでくれるのが言葉です。そして、多様な考え方を持つ人々がつながり、様々な文化を生み出してきました。

ですから、私たちが言語文化を学ぶ理由の１つは、異なる他者に寄り添い、理解することを通して、人とのつながり方を学ぶためだといえます。みなさんにはぜひ、自分とは異なる他者に寄り添い、理解できる人間になってもらいたいと思っています。

【学習方法】

・学習とは、分からない・できないことを、分かる・できるようにすることです。そのためには、自分が今どこまで分かっていて、どこから分かっていないのかを自覚する必要があります。授業中はもちろん、予習や復習の中で自分の今の理解度を把握するとよいでしょう。
・できないことができるようになるにはどうすればいいのかについては、人によって適する方法が異なります。ですから様々な方法を試して、自分に適した学習方法の確立を目指すとよいでしょう。
・単語や文法などの基本的な知識を習得するには反復が必要不可欠です。毎日５分でも１０分でもかまわないので、何度も繰り返し学習するとよいでしょう。
・文章を読む能力を向上させるには、「読み方を説明できるようにすること」と「たくさん読むこと」の両方が必要です。授業では読み方を説明できるようにする取り組みを中心に行いますので、たくさん読むことは自分で計画を立てて行うとよいでしょう。
・知識を習得するにも、読み方を身に付けるにも、古文や漢文などの文体に慣れるにも、音読が効果的です。家で予習や復習をする際にも音読を取り入れるとよいでしょう。

２　学習の到達目標

（１）目的や場に応じて文章の内容や構成、登場人物の心情を的確にとらえ、作品の価値について考察し、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
（２）古典に親しむことによって、先人の考えに触れ、言語感覚を磨くとともに、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができるようにする。
（３）伝統的な言語文化に対する関心を持ち、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、人間関係において、互いを尊重し、相互理解を深め、正しく意思を伝え合うことができるようにする。また、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	①古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶ ②説話に描かれた人物の言動や心情を読み取る ［教材］ 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 『十訓抄』 「大江山」	a：古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]：文章の内容について叙述を的確に捉えるとともに、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 c：進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題にそって作品の内容について批評しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	漢文の訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶ ［教材］ 漢文の基礎 『戦国策』 「借虎威」 「漁父之利」	a：漢文の世界に親しむために、基本的な訓読のきまりについて理解することができる。 b[読]：文章の内容について叙述を的確に捉えるとともに、現代の日本語や古文との比較を通して漢文の特徴を理解することができる。 c：進んで我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの考え方を深め、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	口承の物語と近代文学の違いを理解する ［教材］ 「物語る声を求めて」	a：近代文学と、風土や伝統を背景とした「口承の言葉」の特質を整理し、それぞれの機能や語りの構造の違いを理解することができる。 b[書]：なぜ今「神話的想像力」が求められているのかを、人間が物語を享受する根源的な欲求や「人間の尊厳」という視点から論理的に考察して、自分の意見としてまとめることができる。 c：現代の言葉のあり方を批判的に考察し、失われつつある口承文芸の価値を自分たちの生きる現代に引き寄せて捉え直し、主体的に自らの言葉や想像力を深めようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。登場人物の行動に注意しながら内容を正確に読み取り、人間を生き生きと描いた史伝の魅力を味わう。 ［教材］ 『十八史略』 「刺客荊軻」 「死諸葛走生仲達」	a：漢文の基本的な訓読のきまりを踏まえて文章の内容を把握したうえで、史伝における表現の特徴とその効果について理解している。 b[読]：文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c： 範読を参考にして、積極的に音読している。主本文中の語句の意味を漢和辞典を用いて調べている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	古文で書かれた物語の設定を理解し、登場人物のおかれた状況や心情を読み取る。 ［教材］ 『伊勢物語』 「芥川」 「東下り」	a：我が国の言語文化に特徴的な語句を理解し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c：進んで作品の内容や展開について的確に捉えようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
2学期	作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 ［教材］ 近代の短歌　八首	a：言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解している。 b[書]：自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開や，文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫している: c：各歌から受けた印象を自分の言葉でまとめている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①随筆に描かれた筆者の心情を読み取る ②作品が書かれた当時のものの見方や考え方についての理解を深める ［教材］ 『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 「ある人弓を射ることを習ふに」	a：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解するとともに、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 b[読]：文章の内容について叙述を基に的確に捉え、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解し、内容を解釈している。 c：進んで作品の文化的背景を理解し、文章に表れているものの見方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①史話に描かれた人物の言動や心情を読み取る ②史話が現在まで読み継がれてきた意義を考える	a：漢文の基本的な訓読のきまりを踏まえて文章の内容を把握しているとともに、古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	［教材］ 『史記』 「孔子問礼」 『十八史略』 「管鮑之交」	b[読]:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。また、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c:進んで作品の歴史的背景等を理解し、内容や展開などについて的確に捉え、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。			
	①日記を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解する ②和歌の解釈を通して、作品の中で和歌が果たす役割について考える ［教材］ 『土佐日記』 「門出」「帰京」	a:古典の世界に親しむために，古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり，古典特有の表現などについて理解している b[読]:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c:紀貫之と「土佐日記」について、文学史的事項を調べたり発表したりしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①係り結び、音便、敬語など文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。 ②生き生きと音読し、語り物としての作品の魅力を味わう。 ［教材］ 『平家物語』 「木曽の最期」	a:古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり，古典特有の表現などについて理解している。 b[読]:作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもっている c:源平の合戦をめぐる時代状況についてや、武士の装束、武具と戦のありさまなどについて関心を持ち、調べている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
３学期	①漢詩に描かれた情景や心情を読み取る ②漢詩の特徴や技法について理解する ③日本の言語文化における漢詩の意義について考える ［教材］ 「望廬山瀑布」 「登岳陽楼」 「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」	a:漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや、漢詩の特徴や技法について理解している。 b[読]:作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c:範読を参考にして、積極的に音読している。押韻・対句、語句の意味などを漢和辞典を活用して調べている。作者の生涯について調べ、詩の内容への理解を深めようとしている	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①助動詞や音便など文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。 ②各場面の描写から、具体的な情景や登場人物の心情を読み取る。 ［教材］ 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」	a:我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し，それらの文化的背景について理解を深め，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている b[読]:文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えている。読文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について評価している c:「竹取物語」のその後の展開や、作り物語の系統を引く作品に関心を持ち、調べたり読んだりしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	言葉の響きやリズム、比喩などの技法を捉え、限られた語句や余白から情景を想像し、感性を豊かに広げる。	a: 韻文特有のリズムや表現を理解し、それらが作品の印象にどのような効果を与えているかを捉えることができる。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	［教材］ 「小諸なる古城のほとり」 「竹」 「崖」	b[読]:限られた言葉の中に込められた情景や心情を的確に捉え、作品の世界観を多角的に想像しながら理解している。 c:韻文が持つ伝統的な美意識や、現代的な感性の融合に関心を持ち、進んで言葉の持つ可能性を広げようとしながら、自身の表現や鑑賞の質を高めようとしている。			

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　――　）時間

・書くこと　…　（　１０　）時間

・読むこと　…　（　９５　）時間